

(様式3)

## 令和4年度 指定管理業務の評価表

### 1 施設概要

施設名	伊勢市ひまわり	所在地	伊勢市八日市場町13-1 伊勢市福祉健康センター1階
指定管理者名	社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会	指定期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日まで
設置目的	市民の福祉、健康、世代交流・地域交流等の活動の拠点施設として、社会福祉活動の輪を広げるため		
業務内容	就労継続支援B型事業の一切に関すること 就労継続支援B型を行う事業については、生活指導及び作業指導を行い、利用者の社会的自立、生活意欲の向上を図るように支援すること。また、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者及び家族の立場に立ったサービスを提供すること。		
施設概要	本棟 昭和63年3月完成(開館は昭和63年4月) 敷地面積6,015㎡(駐車場、緑地等含む)、建築面積(延床面積)4617.01㎡(うち本棟4407.58㎡) 本棟 鉄骨鉄筋コンクリート造4階建て 本棟 1階(1718.75㎡) 総合事務室、相談室、ボランティア室、社会適応訓練室、日常生活訓練室、調理実習室、伊勢市ひまわり、和室、個別指導室 等		
職員体制	管理者 1人(兼務) サービス管理責任者 1人(常勤専従)※介護福祉士 職業指導員 1人(常勤専従) 生活支援員 4人(常勤専従1名、非常勤専従2名、非常勤兼務1名(管理者と兼務))		
施設所管課名	高齢・障がい福祉課		

### 2 収支状況

		(A)	(B)	(C)	(単位:円)	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	比較(C-B)	
事業収支	収入	指定管理料	2,519,000	2,361,000	2,361,000	0
		利用料金	25,348,685	25,213,751	23,078,011	△ 2,135,740
		その他	2,142,803	1,593,741	1,751,209	157,468
		計(a)	30,010,488	29,168,492	27,190,220	△ 1,978,272
	支出	人件費	13,877,285	12,776,717	11,455,871	△ 1,320,846
		管理運営費	2,880,228	2,944,283	3,660,469	716,186
		その他	21,497,379	12,630,405	18,381,448	5,751,043
		計(b)	38,254,892	28,351,405	33,497,788	5,146,383
	収支差引額(a)-(b)		△ 8,244,404	817,087	△ 6,307,568	△ 7,124,655

最新年度(C)と前年度(B)に収支の増減があったものについて記載	収入 サービスを併用した利用者の新型コロナウイルス濃厚接触者等による欠席や退所者による利用料収入の減 支出 管理運営費(職員労務管理費)の増 サーマルカメラ(新型コロナウイルス感染防止支援事業補助金)、業務用パソコンの購入による支出の増
----------------------------------	--

### 3 評価（別表様式4に基づく総合評価）

指定管理者	市
<p>・利用延べ人数が前年度から50人の減となった。理由としては、両親が高齢で「親なきあと」のことを考え、他施設を併用して利用する利用者が増えたことと、コロナウイルス感染や、濃厚接触者となり、欠席者が増えた等があげられる。</p> <p>10月に1人一般企業に就職したいと退所、2月に1人介護保険へ移行、3月に長期欠席者が1人退所した。</p> <p>・新規利用者を5月に1人、9月に1人、3月に1人受け入れた。</p> <p>・行事としては、コロナウイルス感染防止の為、感染対策を徹底し実施可能な行事のみを行うことが出来た。</p> <p>・外注先からの受注は、コロナウイルス感染症の影響から、資材が入ってこないこともあり少し減少したが、既存の受託先から、新しい作業内容の依頼があったため、安定した作業量を確保することが出来、利用者の特性に応じた作業を提供することが出来た。</p>	<p>施設の設置目的を理解し、管理運営については適正に行われていた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響などにより利用者の減少があった一方で、サーマルカメラの導入や感染症対策を徹底した上での行事の実施など、感染症流行下において事業の実施に努めたことは評価ができる。</p> <p>受注については、引き続き安定した作業量の確保に努めていただくとともに、利用者の障がいの特性に応じた作業を確保・提供することに努めていただきたい。</p>

## 指定管理業務の項目別評価表

評価項目		施設名 伊勢市ひまわり				
		評価		市		
		指定管理者		市		
業務運営項目	評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由	
施設設置目的の達成	①施設の目的や基本方針の理解	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針を理解していたか。	A	施設の目的・基本方針を理解し、管理の実施をした。	A	施設の目的や基本方針を理解し管理運営に努めた。
	②施設設置目的の達成度	施設の管理運営を通して、施設の設置目的は達成されたか。	A	管理運営を通して、障がい者の就労・創作活動・生活交流の場の提供に資することが出来た。	A	施設の利用状況、管理状況から、施設の設置目的は達成されている。
	③利用者数	利用者数は当初の目標を達成したか。	B	利用者が3人退所し、新規利用者を3名受け入れ利用延べ人数が2,995人となり、前年度から50人減となった。	B	新型コロナウイルス感染症の影響等により利用者延べ人数の減少があった。
	④運営状況	施設の供用日数・供用時間は守られたか。また、適正な施設の運営が行われたか。	A	事業計画書に基づき供用日数・供用時間に達し、適正な運営が出来た。	A	事業計画書に計画された運営が行われ、適正な施設運営が実施された。
	⑤職員の配置状況・勤務実績	職員の配置状況・勤務実績は適正であったか。また、業務執行体制(作業責任者・業務担当者)は明確になっていたか。	A	作業責任者・業務担当者を明確にし、適正な職員配置をした。勤務実績は適正であった。	A	職員の配置状況、勤務実績は適正であった。
	⑥意思疎通	管理運営業務全般について、市と指定管理者の責任者の間で十分な連絡調整がなされていたか。	A	月報等の定期的な報告を行った。	A	毎月の実績報告は適切に行われていた。
	⑦各種管理記録等の整備・保管	各種業務計画書、点検記録、整備・修繕・事故・故障等の履歴等の各種管理記録等が整備・保管されていたか。	A	各種管理記録等の適正な整備・保管を行った。	A	各種の記録については、適正に整備保管されており、月報・年報にて報告がされていた。
	⑧地域の振興	地域や地域住民との交流・連携に関する取り組みを実施し、地域の振興が図れていたか。	A	作業ボランティア等の受け入れを積極的に行い、地域との交流・連携に取り組んだ。	A	作業ボランティアの受け入れ等、積極的に地域交流を図っていた。
	⑨使用許可等	使用許可等申請が適正に行なわれていたか。	—	—	—	—
	⑩利用料金等の徴収状況	徴収、減免、還付等は帳簿等が作成され、適正に行なわれていたか。	A	各種帳簿は適正に作成した。	A	適正に行われていた。
	⑪個人情報	個人情報の取扱いがきちんとなされていたか。	A	慎重に取り扱いをし、担当者が月に1回程度保管管理のチェックを行った。	A	個人情報漏洩などの問題も発生しておらず、個人情報は適切に取扱いされていたと認められる。
	⑫法令遵守	関係法令を遵守していたか。	A	各法令の講習会等に参加し、職員ミーティングを通して全職員で理解し、遵守した。	A	法令違反は見受けられない。

## 指定管理業務の項目別評価表

評価項目		施設名 伊勢市ひまわり				
		評価				
		指定管理者		市		
業務運営項目	評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由	
サービスの質の向上	①施設利用状況及び利用者数増加への取り組み	利用者数の増加や利便性を高めるための具体的な取り組みが行なわれていたか。	A	計画相談支援事業所との連携で新規利用者3名を受け入れた。	A	前年度同様、利用者増に取り組んでいる。
	②利用者の平等な利用	個々のサービスについて、対応職員によって格差が生じないよう、施設のサービス水準を確保するための取り組みを行なったか。	A	毎日のミーティングや月1回の全職員でのミーティングで、情報の共有を徹底し、サービス水準の安定に努めた。	A	期待されるサービス水準を達成していた。
	③適切な情報提供	全ての利用者が情報を得ることができるよう適切な利用情報の提供を行なったか。	A	毎月の予定表・行事や諸連絡のチラシを配布し情報提供を行った。	A	適正な利用情報の提供が実施されていた。
	④非常時・緊急時の対応	緊急時のマニュアルが整備され、従業員訓練の実施や事故発生時・緊急時の対応は適切か。	A	緊急時のマニュアルを整備し、緊急招集訓練等を行った。	A	緊急時マニュアルの整備、避難訓練の実施など、適切に実施されていた。
	⑤苦情解決体制及び対応	利用者からの意見・苦情等を受けて迅速かつ適切に処理できる体制が整っていたか。また、事故、苦情に対する対応は適切であったか。	A	利用者・保護者からの苦情、要望等について適切かつ迅速に対応した。	A	利用者からの意見、苦情等を受け、迅速かつ適切に対応できる体制が整っていた。
	⑥自主事業	利用者ニーズに即した自主事業が行なわれていたか。	B	外注作業の受注先を増やし、作業量の安定に努めた。製品を製作できる利用者が少ないため、新製品の開発に取り組むことができなかった。	B	新製品の開発に取り組むことはできなかったが、安定した作業量の確保に努めていた。
	⑦事業の評価	事業実施後に確認・見直しが行なわれ、次年度へつなげる取り組みがなされていたか。	A	事業報告書作成や満足度調査を実施。反省・提案・見直しを行った。	A	見直し等を適切に実施されており、次年度に反映されたい。
施設・設備等の維持管理	①建物・設備の保守点検	建物・設備・植栽等が適切に管理され、安全性の確保、良好な機能及び美観の保持がされていたか。	A	月に1回程度の安全点検と定期的な機能確認・美観確認を行った。	A	毎月安全点検等を適切に行い、月報にて報告されていた。
	②備品等の管理	備品の管理・点検・保守は適切に行なわれていたか。	A	備品の破損・紛失等はなかった。	A	破損や紛失がなく、適正管理が認められる。
	③修繕業務	点検によって異常が認められた場合は、速やかに修繕・交換・整備・調整等の適切な処置を講じ、その内容を記録されていたか。	A	定期点検により修繕箇所が見つかった時には早急に対処出来るよう心掛けた。	A	毎月安全点検等を適切に行い、月報にて報告されていた。
	④清掃業務	清掃は適切に行なわれていたか。	A	清掃業者による毎日の清掃と定期清掃、必要に応じて職員や利用者で清掃を行った。	A	清掃は適切に行われていた。
	⑤防犯体制	鍵の管理及び防犯に対する対策、対応は適切だったか。	A	鍵は所定の場所に保管し、帰宅時の戸締りは当番を決め確認を徹底した。作業室に防犯用カメラを1台設置した。	A	防犯に関する問題はなく、鍵の管理及び防犯に対する対策、対応は適切であった。